第49回 全日本大学男子選手権大会

平成26年8月30日（土）～9月1日（月）
岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園

早稲田大（東京）3年連続4度目の優勝！

日ソ協記録委員　関根　睦

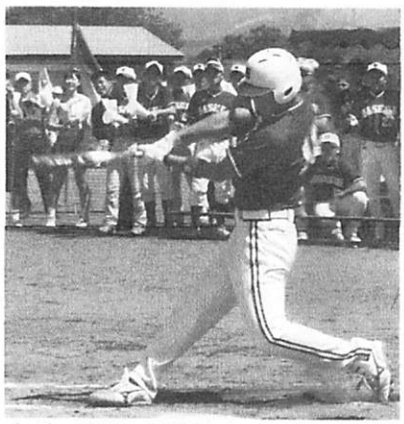
本年度のインカレは女子大会と同時開催で、詩人で小説家の宮沢賢治ゆかりの地・岩手県花巻市の石鳥谷ふれあい運動公園において、8月30日（土）～9月1日（月）の3日間にわたり開催された。

大会初日こそ、小雨模様の中での開催であったが、グラウンドの状態は良く、地元・岩手県協会、花巻市協会および全日本大学連盟の各関係者の尽力により、予定通りの日程で本大会を開催することができた。

優勝したのは大会3連覇の早稲田大（東京）。歓喜の胴上げで吉村正監督が宙に舞った。

1回戦から決勝戦まで全31試合の総得点は323点で、勝利チームの1試合あたりの平均得点は7・6点、敗戦チームの平均得点が2・8点であった。得点差が10点差以上の試合は4試合であったが、1点差で決着がついた試合も6試合あった。

規定打席数12打席以上での首位打者は5割7分1厘の池田康平（早稲田大）。早稲田大は打撃10傑に4名が入るなど打撃好調。全本塁打数は56本、うち満塁本塁打は吉田亨平（早稲田大）の1本。最多本塁打は大嶋翼（早稲田大）の3本であり、ここでも優勝校・早稲田勢が上位を占めた。



攻・守で牽引した早稲田大の主将・吉田（亨）

規定投球回数11回以上での防御率では、河野拓郎（日本体育大）と竹本流星（中京学院大）がともに1・24とランキングトップに並び、河野拓郎は奪三振でも33でトップに立った。

得点差によるコールドゲームは7試合で、また延長戦となったのは1試合だけである。平均試合時間は1時間55分、最短試合は1時間6分、最長試合は2時間38分、2時間を超す試合は12試合あった。

〈準決勝〉

環太平洋大　2012501 11
神戸学院大　0500100 6

（環）児玉・丹生谷・○大原―知土
（神）●永野・楠岡―森
▽本宇根、吉國、井上、知土（環）
上村（神）
三大畑、尾本（環）土井（神）
二知土②、谷本（環）杉江（神）
〔審〕P髙橋（中）1佐藤（行）2阿部（日）3梅沢
〔記〕新村

先攻の環太平洋大は初回、一死一・二塁から4番・大畑がライト線を抜く三塁打を放ち、2点を先制。

一方、神戸学院大は2回裏、6番・杉江の右中間二塁打を口火に5本の長短打などで5点を挙げ、逆転した。

環太平洋大はその直後の3回表、1番・宇根のソロ本塁打で追撃の狼煙を上げ、4回表にも代打・吉國の2点本塁打で5対5の同点。試合を振り出しに戻した。5回表には、3番・井上が

右中間本塁打を放ち、再逆転。なお二死二・三塁と攻め立て、7番・小幡のセンター前への適時打で2点を追加。さらに8番・知土がレフトオーバーの二塁打で続き、9番に再出場した尾本がライト前への2点適時打を放ち、5点差をつけた。

このリードを3人の投手をつぎ込む継投で守り抜き、決勝進出を決めた。

〈準決勝〉

関西大　0000000　0
早稲田大　0000050x　5

（関）●松田―黒田
（早）○松木・吉田（岡）―沓澤
▽本吉田（享）、大嶋（早）二今村（早）
〔審〕P十文字　1千葉（成）　2菅原　3岩渕
〔記〕安藤

早稲田大は5回裏、8番・今村、9番・沓澤の連打で無死一・二塁とし、一死後、2番・金子のレフトファウルフライの間にタッチアップからそれぞれ進塁。二・三塁とし、3番・溝口の死球で二死満塁とすると、4番・吉田享がスリーボール・ツーストライクからの6球目をフルスイング。これが右中間への満塁本塁打となり、一キャプテン一の一振りが試合の均衡を破り、追いうちをかけるように、続く5番・大嶋がレフトスタンドへ連続本塁打。この回5点を挙げ、緊迫した試合に決着をつけた。

関西大は2回表、4回表に、二死二・三塁の先制の好機をつかんだが、早稲田大・先発の松木の投球がギリギリのコースに決まり、いずれも見逃しの三振。チャンスを逃したのが響き、準決勝で力尽きた。

《決勝》

環太平洋大　0132 0　6
早稲田大　3316x　13

※大会規程により5回得点差コールド
（環）●大原・丹生谷―知土・岩原
（早）○松木・吉田ヲ―沓澤
二本谷本、大畑（環）
金子②、大嶋②（早）
〔審〕P小山　1菅原　2平賀　3千葉ヲ
〔記〕千葉ル

後攻の早稲田大は初回、四球で出塁した走者がすかさず盗塁。いきなり得点圏に走者を進めると、2番・金子のセンター頭上を越す2点本塁打で先制。二死後、5番・大嶋もレフトオーバーの本塁打を放ち、この回3点を挙げた。

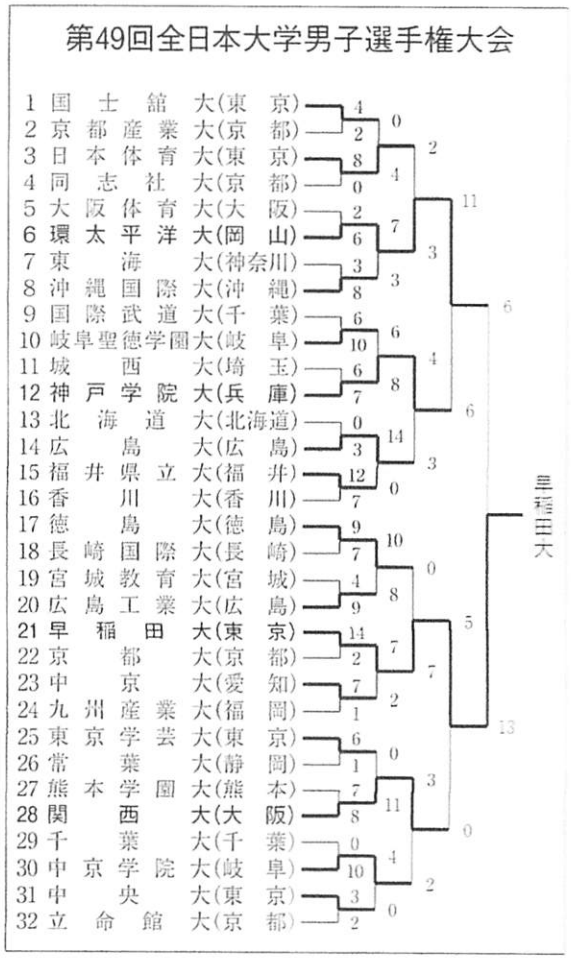
一方、環太平洋大も2回表、5番・谷本がレフトへソロ本塁打を放ち、2点差としたが、早稲田大はその裏、2番・金子が2打席連続となる3点本塁打を叩き込み、5点差にリードを広げた。

追いかける環太平洋大は3回表、3連打の後、二死満塁から7番・小幡のレフト前適時打などで3点を挙げ、再び2点差。

早稲田大もその裏、5番・大嶋のソロ本塁打で1点を追加し、引き離しにかかった。

粘る環太平洋大は4回表、4番・大畑のセンターオーバーの2点本塁打で1点差まで詰め寄り、3連覇を狙う「王者」早稲田大を「射程圏内」にとらえたかに見えた。

環太平洋大も一時は1点差に追い上げたが……

しかし、ここから早稲田大が「王者」の本領を発揮。4回裏、6安打を集中し、打者11人を送る猛攻で6点を挙げ、終わってみれば5回コールド勝ち。「王者」の強さをまざまざと見せつけ、3連覇を達成した。

第49回全日本大学男子選手権大会